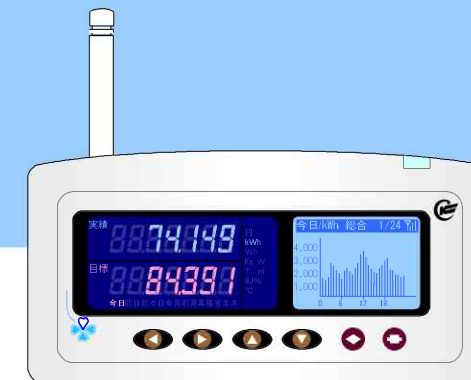


家庭用省エネナビかんたんセットアップ

②無線ガイド

お願い
 本製品や接続する機器(パソコン等)の取扱説明書をよくお読みの上、注意事項などを守って正しくお使いください。
 本書は無線等に関する機器設置の参考資料です。
 リアルタイムな表示更新やデータ記録には、お客さま環境に依存した無線受信状況が重要となりますので、設置時および運用時に継続してご確認されることを推奨します。



無線について

本製品は特定小電力無線（特小無線）と呼ばれる無線規格を使用しています。
 無線は周囲の環境に左右されやすく、表示器を数十センチ動かすだけでも受信状況が変化します。
 本製品のご利用には、お客さまによる「受信状況の確認」が必須で、「受信状況の改善」が必要となる場合もあります。
 本書を参照してご対応ください。

1. 受信状況の確認

センサは30秒～60秒（ランダム）間隔で、データを無線送信しています。
 表示器での受信状況確認には3つの方法があります。適宜使い分けてください。
注意！ 表示器とセンサ間の扉や窓の開閉などによって、受信状況が変化する場合があります。

【確認方法A：アンテナ表示で確認する】

一番簡単に確認できる方法です。アンテナ本数を見るだけで、現在の瞬間的な状況が確認できます。
 ※表示種別ごとに確認できます。（「総合」では設定されたすべてのセンサ受信状況のうち最低を表示）

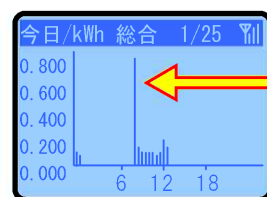
①通常モードで右画面の右上にあるアンテナ表示を確認します。受信状況は以下のとおりです。

📶	アンテナ3本：センサからの無線を1分以内に受信している状態	良好
📶	アンテナ2本：センサからの無線を1～2分間受信していない状態	良い
📶	アンテナ1本：センサからの無線を2～3分間受信していない状態	良くない
📶	アンテナ0本：センサからの無線を3～4分間受信していない状態	悪い
×	×（バツ印）：センサからの無線を4分以上受信していない状態	陰悪

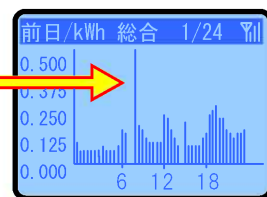
【確認方法B：グラフ表示で確認する】

30分に1本描画されるグラフを見て、受信状況を確認する方法です。
 グラフ描画が全くない時間後にまとめて描画される様子は、30分以上受信しなかったことを現します。

- ①通常モードで右画面グラフ表示を確認します。
- ②🔍 ボタンが🔍 ボタンで「今日」「前日」「前々日」を切替えて確認できます。



受信していなかった時間の電力量データをまとめて受信して表示しています。



事例1：深夜に無受信状態
 （当日12時頃に確認した時）

事例2：7時と14時に無受信状態
 （前日実績を確認した時）

【確認方法C：通信テストモードで確認する】

更に詳しく状況を確認したい場合に用いる方法です。

- ①表示器の🔍 ボタンを3秒以上長押し、通信テスト画面にする。（下左図）
 通信テスト画面の状態でもう一回🔍 ボタンを押して通信ログ画面にする。（下右図）

【通信テスト】

状態02	: OK
無線ID	: 11
種別	: 灯01(01)
積算	: 1500
瞬間	: 140

【通信 ログ】

12:54:30	80002
12:55:10	122001
12:55:55	340002
12:56:40	143001
12:57:20	150001

- ②通信ログ画面で2回受信（※）を5度以上（約5分以上）連続確認できれば、現在の受信状況は良好です。
 受信間隔が1分以上空いた場合や2回受信ができないことがある場合は、受信状況が良好ではありません。

良好

2回受信している例

【通信 ログ】

11:11:28	2974001
11:12:15	2975001
11:12:16	2975001
11:13:07	2976001
11:13:07	2976001

受信時刻 積算値 (Wh) 無線ID 合致確認 無線種別

良くない

数値NGの例

【通信 ログ】

11:29:40	無線ID×61
11:29:45	2465001
11:29:46	数値NG×--
11:32:59	2469001
11:33:00	2469001

- ③確認が終わったら、必ず🔍 ボタンを押して通常モードに戻してください。
注意！ 通信テストモード中はデータが本体へ反映（保存）されません。

※2回受信について
 受信の機会を増やす為、センサからは一度に2回同じデータを送信しています。
 受信状況が良好な場合は、ログ画面で2回同じデータを受信した結果が表示されます。
 1回しか受信できなかったり“数値NG”と表示された場合は、受信状況が良い場所とは言えません。

2. 受信状況の改善

受信状況が良くない場合は、以下を参考に表示器（省エネナビ本体）を動かして下さい。

注意！ 受信状況の良好を確認できた場所でも、わずかな環境変化によって状況が変わることがあります。

しゃへいぶつ

① 遮蔽物（壁・扉・物）を減らす

無線が遮蔽物を通過する時には電波が弱くなります。

したがって、遮蔽物が少ないほど受信しやすくなると言えます。

金属製の遮蔽物は特に影響が大きい為、出来るだけ避けることをお勧めします。

② 表示器とセンサ間の距離を近づける

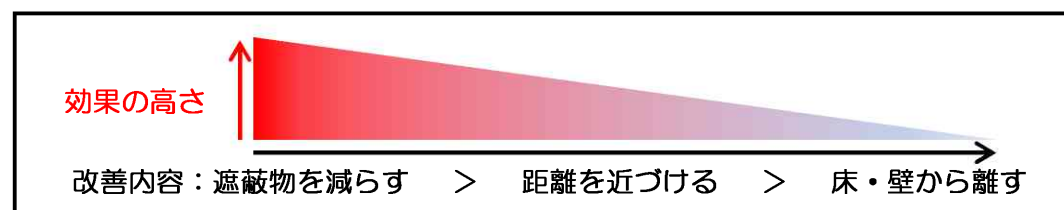
無線は距離が離れるほど電波が弱くなり、受信しにくくなります。

したがって、センサに近い所へ表示器を設置すると受信しやすくなります。

③ 表示器の設置場所を床や壁から離す

部屋の隅など壁の近くや床上などの低い所では、無線の特性により受信しにくい場合があります。

表示器を壁や床から少しでも離すことで、改善されることがあります。



その他注意事項

○遮蔽物の種類について

無線に影響が大きいもの： 金属、鉄筋コンクリート、鉄骨、狭い空間、床暖房、水分など

無線に影響が低いもの： ガラス、プラスチック、木の扉、ふすまなど

大きな金属（鉄板・大型家電）は、表示器とセンサの間でなくても影響を及ぼすことがあります。

○家電製品について

家電製品自体も多く金属を使っていることが多いため、使っていないでも“金属系遮蔽物”となりますが、それだけでなく電磁波（ノイズ）の影響がでる可能性もあります。

○アマチュア無線等について

極稀に外部からの強力な電磁波の影響を受けることがあります。

例：アマチュア無線、特小無線機器、無線基地局、工場機械ノイズなど

○表示器のアンテナについて

表示器のアンテナは、手で簡単に外せる“ねじ込み式”となっています。

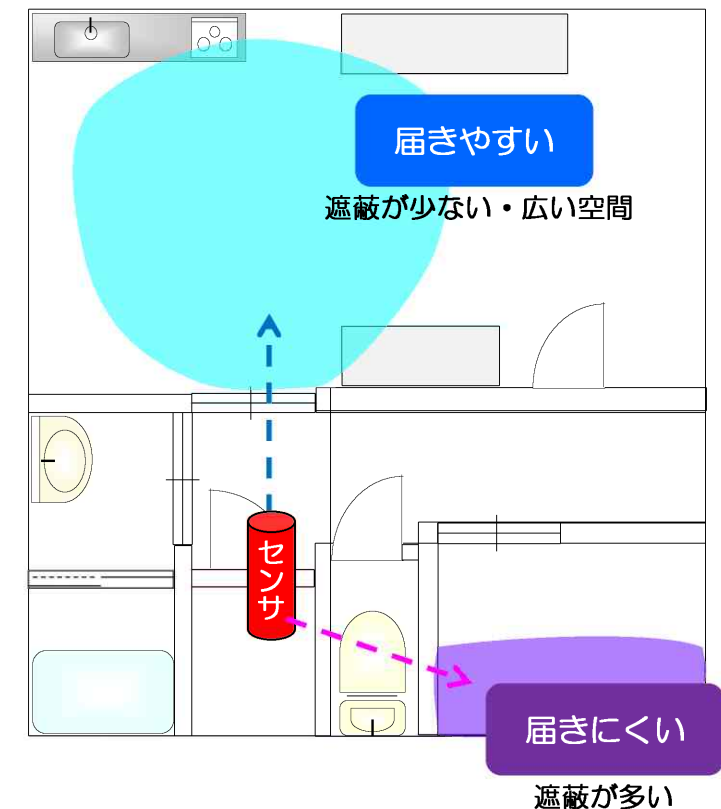
操作や振動などで緩むと、無線感度が下がることがありますのでご注意ください。

3. 設置例(参考)

例1 一戸建ての場合

ガラス引き戸やふすまなどが一枚だけなら、少し距離があっても受信が良好となりやすい傾向です。反対に遮蔽物が多い場所では、無線が受信しにくくなり、更に環境変化も受けやすくなります。

また、天井や床などの材質にもよりますが、1階から2階など階をまたぐ利用は難しいことが多くなります。



例2 マンションの場合

センサから遠い部屋でも、遮蔽物が少ない場合は、無線が届く可能性が高くなります。

ただし、扉の材質等にもよりますが、開閉の影響により、受信しにくくなることもありますので、開閉それぞれの状態で、受信状況の確認をされることを推奨します。

